

北海道新聞

2012年
10月20日 土

発行所：北海道新聞社
札幌市中央区大通西3丁目6
〒060-8711 電話：011-221-2111
www.hokkaido-np.co.jp

札幌の「アイ・サム」開発

ゼッケン 通気穴で快適に

ランナーが快適に走ることができるよう通気用の穴を開けたゼッケン



あすマラソン大会で初採用

札幌のスポーツイベント運営会社「アイ・サム」は、ランナーが大会時に快適に走ることができるよう、通気用の穴を自由に開けられるゼッケンを開発した。21日に札幌市内で開催される北海道ロードレースで初めて採用される。

マラソン大会などで「ペントナンパーカー」は、空気を通さないゼッケン部分を縦0.8センチ、横1.5センチの長方形の穴の折り目を26個設けて、ウエアに張り付き、不快感を持つランナーもいる。自分でゼッケンに穴を開ける人もいるという。同社が今回開発した胸部分を冷やす。

気温が低ければ開ける穴を少なくし、高温の日には穴の数を増やすなど、ランナーが天候や体調に合わせて穴の数を調整できる。同社は2008年に、直径3〜5センチの通気用の穴約270個を開けたゼッケンを開発したが、1日約500枚しか製作できず、改良を進めてきた。

今回は、ゼッケンナンパーが認識できる範囲で穴を大きくして通気性をさらに高め、加工法を見直して1日約5千枚の量産化が可能になった。21日の北海道ロードレースではハーフ（約21キロ）、10キロ、5キロの全3部門で採用される。同社の石黒裕社長は「通気性を向上させることで、ランナーの疲労感を和らげることができ、21日の大会を機に、道内外の大会で採用が広がってほしい」と話している。（井上雄一）

